

## 研究の概要

### (1) 研究主題

活力ある学びを育む学習指導の在り方  
～「学ぶ意欲」と「学びの成就感」をめざして～

### (2) 研究主題設定の理由

学校教育の今日的課題から

現代社会は、環境問題への対応、少子高齢化社会における福祉の在り方など、多くの課題に直面している。また、社会や経済の高度化・複雑化、グローバル化が急速に進展するなか、異なる文化・文明との共存や国際相互協力への参画なども求められている。

このような急速かつ激しい変化が進行する現代社会を、生徒の一人一人が主体的・創造的に生き抜いていくために、教育に求められている課題は多岐にわたる。基礎的・基本的な学習内容を確実に身に付けさせること、主体的に行動し、よりよい問題解決を図る資質や能力を身に付けさせること、豊かな人間性やたくましく生きるための健康な心身を育むことなどである。

本校生徒の実態から

本校生徒の多くは、落ち着いた態度で授業にのぞみ、思いやりを忘れず、前向きに奉仕活動に取り組むなど、よりよい生活を送ろうとしている。さらに授業等においても、自他のよさを認め合いながら学習に取り組む姿が見られる。

平成18年度第1学期に行った「学校生活スキル尺度調査」からは、さまざまな生徒の様子をうかがい知ることができる。そこには「宿題などやるべきことはきちんとできる(全校平均75.6%)」、「提出物を定められた日までに提出できる(同71.4%)」など、自分のすべきことにきちんと取り組もうとする誠実な姿が見られる。同時に「授業の内容がよく分かる(同69.3%)」という反面、「学習に自信がついた(同57.3%)」、「もっと学びたいという気持ち強い(同52.0%)」というように、意欲や成就感に関する項目において低い数値が見られ、それは学年が進むにつれてより顕著になっている。より学びたいと欲する意欲、学習活動への充実感が、生徒が学習にのぞむものとなっている。

本校の求める生徒像から

本校では、「すこやかに たのしく きよく～心豊かでたくましく生きる力を育成する～」ことを教育目標に掲げている。さらに本年度は、

めざす学校像 活力のある学校

めざす生徒像 自ら学ぶ生徒・心豊かな生徒

を具体的な目標として、授業をはじめ、合唱コンクールや十数年ぶりに復活した体育祭などの各種行事、部活動などを通してその実現に努めている。その成果は、「学校生活が充実している(全校平均75.7%)」(前出「学習スキル尺度調査」による)といった部分にも見ることができる。

本校職員に対して本年度5月に行った「学力向上に関するアンケート」では、生徒の実態について、何事にもまじめに取り組むが、学ぶ意欲や主体的に学習に取り組む姿勢にももの足りなさを感じるといった意見が多く見られた。また、教科指導への問題意識については、各教科で生徒の何を育てるのか、その教科らしさとは何かといった教科の専門性についての意見や、受験に対する学力や個人差、目に見えるものと見えないものへの対応の難しさがあるといった意見が多く見られた。

### 本校における研究の経過から

本校では「豊かな心で主体的に学ぶ生徒の育成」を主題に掲げ、4年間の継続的な研究を行ってきた。平成14年度は新教育課程実施にともなう各教科の授業実践や新たな評価の在り方について、平成15年度から平成17年度にかけては、茨城県の「ハートいっぱい推進事業」の研究指定を受けたことを契機として、豊かな人間性の育成をめざした道徳の資料開発や授業実践を行ってきた。そこでは前述した道徳性を基盤とした豊かな人間性や授業態度のほか、「授業のグループ活動のとき、協力して活動できる（全校平均85.8%）」、「友達の話を相手のみになって聞くことができる（同78.4%）」（前出「学習スキル尺度調査」による）などのように、生徒同士がそのよさを認め合えるというよさを培うことができた。

以上のような「本校生徒のよさ」を生かしながら、「学ぶ意欲と学びの成就感」を育むような学習を構想し展開していくこと、そのために教師（集団）はどうあるべきかについての研修を深めていくことをめざして、本研究主題を設定した。

### (3) 研究のねらい

教師集団の力を生かして、教職員それぞれが「活力ある学び」についての認識を深めるとともに、その実現のための実践的能力を高める。

### (4) 研究の内容と方法

研究の全体構想について

研究のねらいを達成するために、次のような全体構想をもとに研究を進めた。

研究推進委員会（校長，教頭，教務主任，研究主任，各プロジェクト長 計7人）  
研究日程等の調整，研究内容についての検討

### 全 体 研 修 会

	授業力向上プロジェクト	調査研究プロジェクト		情報発信プロジェクト
		学習意識調査部	学力調査部	
ね ら い	学力向上に関する情報・資料を収集して提供したり、授業力向上のための研修会を実施したりする。	「生活スキル調査」などの意識調査を実施、分析し、学びへの関心・意欲等に関する資料を作成、提案する。	「学力診断テスト」などの集計を分析し、基礎・基本の定着等に関する資料を作成、提案する。	学力向上拠点校として、研究のねらい・経過・成果をWebページ等で発信する。

各教職員による一人一研究

地域小中学校の研修

## 「活力ある学び」について

研究のねらいに迫るために、まず活力ある学びを育む学習指導を次のようにとらえた。

教科の特性が生きており、生徒が学習の主体であるという自覚のもてる学習指導

中学校で学ぶよさは、教科担任制にある。教師が各教科の特性をとらえて授業を行い、それを学ぶおもしろさや喜びを味わわせていくところに生徒の活力ある学びが生まれることは当然のことであろう。各教科らしさとは何か、その学びにおいて何を育てるべきなのかを明確にする。そして、それをどのように実現していくかを考え続けていくことは、教師の専門性と深くかかわる部分だと考える。

学ぶことは、自分がその主体であると自覚できたときに継続可能なものとなる。生徒が自ら課題意識をもち、見通しをもちながら学習を進め、学んだという成就感のもてる学習が展開されれば、そこには活力ある学びの姿が見られることになるだろう。さらに、新たな学習への意欲も生まれてくると考える。

以上のように、明確にした教科の特性をもとにして、生徒が主体となる学習過程を構想・実践すれば、活力ある学びを育む学習指導が実現できると考えた。

そこでまず、上述の考えにもとづいた授業実践を行っていくために「(各教科における)活力ある学びのとらえ」を作成した。

## 「一人一研究」について

教科の特性にもとづいた、生徒が主体となる学習指導の実現のためには、教師一人一人の授業力向上が前提となる。そこで、教科指導を担当している教師全員が授業研究を行い、研修を深めていくこととした。ここでは「(各教科における)活力ある学びのとらえ」をもとに各自が研究主題を設定し、本時における活力ある学びを実現するための具体的な手だてを構想し、授業のなかで実践、検証していくことをめざした。

## 「各プロジェクト」の取り組みについて

本研究では、校内の研究組織を「各研究部」という役割分担による運営のかたちをとるのではなく、「各プロジェクト」による組織とすることで、自ら研修し開発していく姿勢を高めていこうと考えた。それぞれのプロジェクトは、ねらいにもとづいて、各プロジェクト長の指導のもとに活動内容を決め、実践を行っていくこととした。

### ア 授業力向上プロジェクト

活力ある学びを育む学習指導を実践していくためには、しっかりした教材研究にもとづき、生徒が主体的に取り組めるような学習過程のもとで学習を進めていく必要がある。また、そこにおける生徒の意識の変容にも注目していく必要があるだろう。

そこで授業力向上プロジェクトでは、「活力ある学びのとらえ」についての各教科部内での研修を提案したり、座席表を使った「個々の生徒のよさのとらえ」を試験的に行ったりするなどして、活力ある学びを育む学習指導のための基礎的な研究を行っている。また研究推進校の視察なども積極的に行い、新たな校内研修のかたちについても模索中である。

### イ 調査研究プロジェクト

活力ある学びを育む学習指導を構想するためには、生徒の実態把握が欠かせないものとなる。学びへの成就感や学ぶことへの意欲を育むためには、目に見える学力と目に見えない学力、生徒の求めるものなどをできるだけ具体的に把握し、単元の構想に生かしていくことが重要であろう。

そこで、調査研究プロジェクトでは、上述したことを可能とする調査を行い、その結果を本校生徒の実態として提案し、具体的には、学習意識調査部が「学校生活スキル尺度調査」、学力調査部が「学力診断テスト」の分析を行い、そこに見られる本校生徒の実態についてまとめ、その課題等を提案している。

#### ウ 情報発信プロジェクト

本研究が「学力向上拠点形成事業」であるという性格上、その成果を校外へ発信していく必要がある。またその発信した情報への反応を校内研究にフィードバックし、その充実に生かしていくことも重要になってくるだろう。

そこで、情報発信プロジェクトでは、Web ページを製作し、本研究の成果を校外に発信する準備を行っている。水戸市内の他指定校の担当者と連携しつつ、本校としてどのように Web ページを充実させていくかについて、その内容や形式等についての検討を行っている。

(文責 鈴木 稔)